

### 3) 市中肺炎に対する高用量 SBT/ABPC 投与例について

<sup>1</sup> 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー内科

○谷口 博之<sup>1</sup>

スルバクタムナトリウム・アンピシリンナトリウム（以下、SBT/ABPC）は、海外では 1986 年に米国で承認されて以来、ドイツ、フランスなど 60 を超える国と地域で承認されている。SBT/ABPC の 1 日最大用量は、欧米のみならず、アジア諸国（中国、台湾および韓国）においても 12 g と設定されており、その有効性および安全性は確立されている。

また、教科書および海外のガイドラインにおいて、SBT/ABPC は肺炎に対する第一選択薬の一つとして推奨されており、推奨用量は「1 回 3 g，1 日 2～4 回点滴静脈内投与」と記載されている。

本シンポジウムにおいて、海外で実施された SBT/ABPC 1 日 9 g 以上を投与した無作為化試験に関する文献報告をまとめたので紹介したい。さらに、肺炎に対する日本人での SBT/ABPC 高用量投与（1 日 12 g 投与）の有効性および安全性を確認するために実施された市中肺炎を対象とした国内第 3 相試験に登録した本施設の症例についても紹介したい。